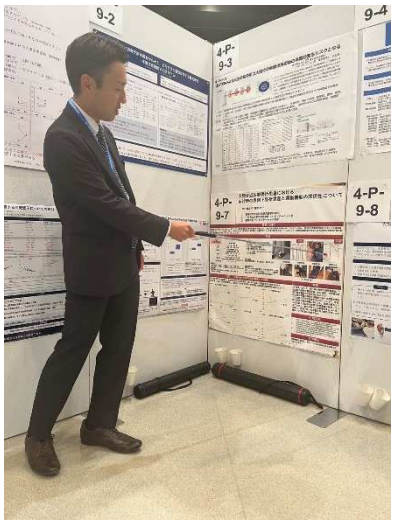
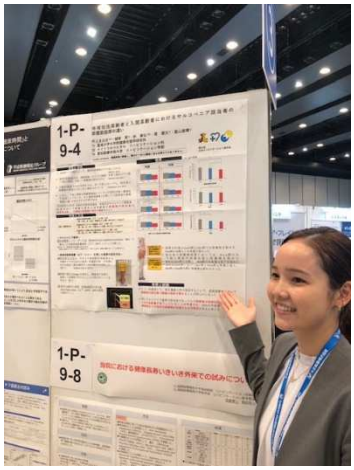
星城大学大学院健康支援学研究科　研究成果報告書（論文掲載版）

報告日	2024/7/01		
氏名	判治真也	指導教員名	越智亮
掲載内容（　☒研究論文採択　　☐総説論文掲載　　☐その他紀要など　）※いずれかにチェック			
論文採択・掲載日：	2024　年　5　月　8　日		
論文掲載雑誌名 巻・号・年	愛知県理学療法学会誌 36 巻 1 号 2024 年		
doi	http://aichi-npopt.jp/dl/info_paper_back/36_1_3.pdf		
タイトル：	後方転倒回避ステッピング中の下肢筋活動量と着地時姿勢の特徴		
発表者名（全員記載）：	判治真也　越智亮　太田大貴		
要旨 （250 字程度）	後方の転倒回避ステッピングにおける外乱刺激を増大させた際の下肢筋活動量と着地時姿勢の変化を調査し，バランス回復に寄与する下肢筋を明らかにすることを目的とした．健常男性若年者 13 名を対象とし，突然の牽引解放による後方ステッピングを行わせた（Tether-release 法）．牽引量は体重の 5%・10%・15%とし，動作中の下肢筋活動の測定，ステッピング着地時姿勢の評価を行った．ケーブル牽引量の増大に応じて，振出脚の半腱様筋と大腿直筋および前脛骨筋，支持脚の大殿筋と大腿直筋および前脛骨筋の筋活動量が有意に増加した．活動量が増加した筋が後方への転倒回避ステッピングに関与する筋であると考えられた．		

星城大学大学院健康支援学研究科　研究成果報告書（学会発表・講演講師版）

報告日	2024 年 6 月		
氏名	野田 篤志	指導教員名	越智 亮
掲載内容（　☒学会研究発表　　☐講演講師　　☐その他　）			
学会等開催日：	2024 年 6 月 13 日 ～ 2024 年 6 月 16 日		
学会等名称：	第 61 回日本リハビリテーション医学会学術集会		
学会等開催場所： 国名，都市名，会場名	セルリアンタワー東急ホテル，渋谷ヒカリエ		
研究・講演タイトル：	大腿骨近位部骨折患者における歩行時の患側下肢荷重量と運動機能との関係性について		
発表者名（全員記載）：	野田 篤志，越智 亮		
研究概要 （150 字程度）	本研究では，大腿骨近位部骨折患者における歩行時の患側下肢荷重量と運動機能との関係性を検証した．歩行時の患側下肢荷重量は起立時の患側下肢荷重量，立位保持時の患側下肢荷重量と中等度の正の相関を認めた．また，疼痛，関節可動域，筋力とは有意な相関関係を認めなかった．今後は，対象者数を増やし因果関係について検討していく．		
感想その他 アピール欄 （100 字程度）	学会発表を通して，データ解析や統計学的分析などについての課題点を見出せた．今後は，解析方法などを見直して対象者の病態や特性などを明らかにし，介入研究に活かしていきたい．		
写真添付欄 2 枚以内			

星城大学大学院健康支援学研究科　研究成果報告書（学会発表・講演講師版）

報告日	2024 年 6 月 17 日		
氏名	村上ま比呂	指導教員名	越智　亮
掲載内容（　☒学会研究発表　　☐講演講師　　☐その他　）			
学会等開催日：	2024 年 6 月 13 日 ～ 2024 年 6 月 16 日		
学会等名称：	第 61 回日本リハビリテーション医学会		
学会等開催場所： 国名，都市名，会場名	東京都　渋谷区 セルリアンタワー東急ホテル，渋谷エクセルホテル東急，渋谷ヒカリエ		
研究･講演タイトル：	地域在住高齢者と入院高齢者におけるサルコペニア該当者の腓腹筋筋厚の違い		
発表者名（全員記載）：	村上　ま比呂，越智　亮，林　尊弘、窪　優太，冨山　直輝		
研究概要 （150 字程度）	本研究は，地域在住健常高齢者と，地域在住サルコペニア高齢者，入院患者の 3 群間において腓腹筋の筋厚に違いがあるか調査をした．筋骨格筋量指数は同程度であっても，入院患者は他の 2 群と比較して有意な筋厚の減少を認めた．下腿三頭筋は遅筋線維を多く含む筋であり，一日の活動量が筋厚に影響すると考えられた．		
感想その他 アピール欄 （100 字程度）	本研究から，同じ高齢者であっても地域在住と入院患者では大きく筋厚の差を認め，一日の活動量が影響することが考えられた．入院するだけで活動量が低下することを改めて痛感し，臨床場面において必要な運動を検討していく必要があると思った．また，自身の研究の発展につながる様々な視点からの質問や意見をいただけた．研究内容を見直し，次の研究に向けて進めていきたい．		
写真添付欄 2 枚以内			

星城大学大学院健康支援学研究科　研究成果報告書（学会発表・講演講師版）

報告日	2024 年 6 月 11 日		
氏名	野田 篤志	指導教員名	越智 亮
掲載内容（ ☒学会研究発表　☐講演講師　☐その他 ）			
学会等開催日：	2024 年 6 月 8 日 ～ 2024 年 6 月 9 日		
学会等名称：	第 28 回日本ペインリハビリテーション学会学術大会		
学会等開催場所： 国名，都市名，会場名	長崎大学医学部医学科坂本キャンパス 1		
研究・講演タイトル：	大腿骨近位部骨折患者における患部疼痛と患側下肢荷重量との関係性		
発表者名（全員記載）：	野田 篤志，越智 亮		
研究概要 （150 字程度）	本研究では，大腿骨近位部骨折患者における患部疼痛と患側下肢荷重量との関係性を検証した．歩行時の患部疼痛は歩行時の患側下肢荷重量との間に中等度の正の相関を認めた．歩行時の患部疼痛が無い者では，術後における患側下肢の荷重制限により患側下肢荷重量の低下を認めた者が散見された．今後は対象者を増やし，さらなる検討が必要である．		
感想その他 アピール欄 （100 字程度）	学会発表を通して，データ解析や統計学的分析など多くの課題点を見出せることができた．今後は，研究結果を見直し，対象者の病態や特性などを明らかにしていきたい．		
写真添付欄 2 枚以内			

星城大学大学院健康支援学研究科　研究成果報告書（論文掲載版）

報告日	2024 年 6 月 6 日		
氏名	村上慈葉	指導教員名	太田進
掲載内容（　☒研究論文採択　　☐総説論文掲載　　☐その他紀要など　）※いずれかにチェック			
論文採択・掲載日：	2024 年 5 月 14 日		
論文掲載雑誌名 巻・号・年	Gait & Posture		
doi	10.1016/j.gaitpost.2024.04.037		
タイトル：	Effects of gait intervention using the draw-in maneuver on knee joint function and the thoracic kyphosis angle in knee osteoarthritis		
発表者名（全員記載）：	村上慈葉，太田進，藤田玲美，大古拓史，川崎慎二		
要旨 （250 字程度）	【目的】 短時間の Draw-in maneuver（DI）歩行指導で膝関節内転モーメント（KAM）が減少するか，変形性膝関節症（膝 OA）症例に対する DI 歩行介入による膝関節機能への効果を検証した. 【方法】 研究 1: 健常成人に対し DI 歩行指導と自己練習を各 10 分実施した. 研究 2: 膝 OA 症例に対し 1 日 20 分間の DI 歩行介入を 6 週間行った. 【結果】 研究 1: 10 分間の指導と自己練習後、KAM が減少した. 研究 2: 6 週間後に膝痛が 19%減少し，胸椎後弯角度が 2.6° 減少した. 【考察】 健常成人は，10 分間の指導と自己練習で，DI 歩行の習得が可能であると考えられる．膝 OA 症例では，1 日 20 分の DI 歩行を 6 週間継続することで，膝痛と胸椎後弯角度が減少する可能性がある.		

星城大学大学院健康支援学研究科　研究成果報告書（学会発表・講演講師版）

報告日	2024 年 5 月 25 日(土)												
氏名	榛地佑介						指導教員名	大田進					
掲載内容（　☒学会研究発表　　☐講演講師　　☐その他　）※いずれかにチェック													
学会等開催日：	2024	年	5	月	19	日～	2024	年	5	月	19	日	
学会等名称：	第 32 回愛知県理学療法学術大会												
学会等開催場所： 国名，都市名，会場名	愛知県名古屋市　ウインクあいち												
研究･講演タイトル:	前十字靭帯再建術後抜釘術時における膝関節軟骨変性の進行と歩行対称性の関連について												
発表者名（全員記載）:	榛地佑介　安井淳一郎　太田進												
研究概要 （150 字程度）	先行研究において前十字靭帯再建術後の異常歩行は変形性膝関節症の発症に関連すると報告されている．本研究では再建術後抜釘時の膝関節軟骨変性進行と歩行対称性の関連について検証した．結果は，軟骨変性進行あり群は歩行対称性は保たれていたが，左右の動揺が大きいという結果となった．今後は時系列や関連因子についてさらに詳細な検証が必要である．												
感想その他 アピール欄 （100 字程度）	質問を複数いただくことができ、今までの発表よりも自身の考えを時間内でまとめることはできたように感じた．聴講者からも時系列での特徴について質問を頂いたため，その部分も明らかにしていき次につなげていきたい．												
写真添付欄 2 枚以内													

星城大学大学院健康支援学研究科　研究成果報告書（論文掲載版）

報告日	2024/5/28		
氏名	石野晶大	指導教員名	山田和政
掲載内容（　☒研究論文採択　　☐総説論文掲載　　☐その他紀要など　）			
論文採択・掲載日：	2024　年　3　月　29　日		
論文掲載雑誌名 巻・号・年	理学療法学　早期公開日：2024/5/25		
doi	https://www.jstage.jst.go.jp/article/rigaku/advpub/0/advpub_12466/_pdf		
タイトル：	回復期リハビリテーション病棟に入退棟した低栄養リスクを有する脳卒中患者における栄養状態の推移の実態と日常生活動作改善度への影響		
発表者名（全員記載）：	石野晶大　山田和政　牧芳昭		
要旨 （250 字程度）	本研究は ADL 改善度に GNRI の推移が与える影響を検証することを目的とした．対象は低栄養リスクを有する脳卒中患者 328 名とした．調査項目は入棟時の基本属性，身体機能・能力，GNRI の推移とした．GNRI の推移は入棟時から入棟 2 ヶ月時の GNRI の臨床的に意味のある最小差（MCID）を算出し，MCID と GNRI のカットオフ値に基づき 4 群に分類した．解析は多重比較検定と目的変数を ADL 改善度とした重回帰分析を行なった．その結果，ADL 改善度は GNRI が向上した群と比較して，維持群，低下群でいずれも有意に低値であり，GNRI の推移は ADL 改善度に影響した．栄養状態が維持もしくは低下した症例は良好な ADL の改善が得られず，入棟期間中の栄養状態の推移に留意し，栄養状態の向上を図る栄養管理の重要性が示唆された．		

星城大学大学院健康支援学研究科　研究成果報告書（学会発表・講演講師版）

報告日	2024 年 1 月 31 日		
氏名	村上ま比呂	指導教員名	越智　亮，林　尊弘
掲載内容（　☒学会研究発表　　☐講演講師　　☐その他　）			
学会等開催日：	2024 年 1 月 26 日 ～ 2024 年 1 月 27 日		
学会等名称：	日本物理療法合同学術大会 2024		
学会等開催場所： 国名，都市名，会場名	奈良県　奈良市　　奈良コンベンションセンター		
研究・講演タイトル：	局所的振動刺激を併用した下腿三頭筋の筋厚と筋特性の即時的変化		
発表者名（全員記載）：	村上　ま比呂，越智　亮，林　尊弘、宇佐美　雄斗		
研究概要 （150 字程度）	本研究は，地域包括ケア病棟に入院中の廃用性筋萎縮高齢患者を対象に，局所的振動刺激を併用した起立・立位保持運動の筋肥大効果について超音波診断装置を用いた筋厚の即時的変化を調査して検証した．振動刺激なしの起立のみの群と，振動刺激ありの群の 2 群間で，筋厚の即時的変化率の差は有意でなく，振動刺激併用起立トレーニングの筋肥大効果を明らかにできなかった．対象者数を増やし，長期的な介入の効果を引き続き研究していきたい．		
感想その他 アピール欄 （100 字程度）	本学会において，振動刺激の適用例の講演を拝聴した．その中で，褥瘡治療に用いて一定の効果が得られた報告があり，振動刺激を扱う研究を進めていくうえで知見が増え，またその効果における生理学的なメカニズムも学ぶことができ，とても良い機会になった．自身の研究の発展につながる様々な視点からの質問やご意見をいただけた．物理療法学を専門とする理学療法士の先生方や企業の方と交流ができた．次の研究に向けて邁進していく所存である．		
写真添付欄 2 枚以内			